

二〇二一年度

尚綱学院高等学校

入学試験問題

国語

試験時間（五〇分）

注意事項

- 一. 「始め」の合図があるまで問題の表紙を開かないでください。
- 二. 解答用紙には決められた欄に受験番号のみ記入し、氏名は書かないでください。
- 三. 解答は必ず解答用紙のそれぞれ決められた欄に記入してください。
- 四. 印刷が見えにくい場合は、手をあげて監督者の指示に従ってください。
- 五. 考査が終わったたら、解答用紙と問題用紙を別々にしておいてください。
- 六. その他すべて、監督者の指示に従ってください。

受験番号

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「降ってきたの？ やっぱり……。」

次女がやれやれというふう<sup>ふう</sup>に妹の顔を見ると、三女はなにもいわずに頬を脹らませて、白目を返した。

「怒ったって X わよ。天気予報<sup>てんきよほう</sup>って、いつだってこうなんだから。当らなければいいと思うときに限って、当るんだから。」

「今夜は、もう駄目？」

「駄目よ、雨降りじゃあ。」

「でも、天気予報は一時雨よ。」

「雨はすぐ上<sup>あが</sup>っても、雲があつたらお月見はできないでしょう？ ねえ、お父さん。」

「その通りだ。今夜は Y」と諦めて、もう寝た方がいいよ。」

彼がそういうと、三女は仕方なさそうに手持ちのカードをばらばらとこぼして、それから大きな欠伸をした。

彼は、ついでに誰もいなくなった階下の戸締まりをみて廻<sup>まわ</sup>つてから、また二階の自分の部屋へ戻ってきた。すると、それを待っていたようにパジャマ姿の三女がきて、一つ頼み<sup>A</sup>事<sup>こと</sup>をしてもいいかといった。

「もしもね、これから雨がやんで、晴れてきて、月蝕<sup>げつしょく</sup>がみえるようになったときは、忘れないで起こしてほしいの。」

「小姉ちゃんもか？」

「あたしだけでいいの。ぐっすり眠<sup>ね</sup>っていても構<sup>ま</sup>わないから。」

「わかった。ただし、気がついたらだよ。一<sup>ひと</sup>と晩中、なんにもしないで空ばかり見張<sup>み</sup>っているわけにはいかないからね。」

彼は、今夜はもう月が顔を出すことはあるまいと思<sup>おも</sup>っていたが、それでも念のためにその出窓の障子を開けておいて、時々窓の外へ目をやっていた。しばらくすると、雨が上<sup>あ</sup>った。何度目かに、雨に濡<sup>ぬ</sup>れた隣家の屋根が蒼白<sup>あざしろ</sup>く光<sup>あ</sup>っているのに気がついた。壁に庭木の影も映<sup>うつ</sup>っていた。彼は、首<sup>くび</sup>をかしげるような気持<sup>きもち</sup>で南向きの板の間へ出ると、その窓を開けてみて、びっくりした。

雲の切れ間に、まさかと思<sup>おも</sup>った月が出てくる。彼は、その月が縁のところから内側へ円く欠けはじめているのを見て、（わかり切ったことなのに）思<sup>おも</sup>わず、

「月蝕だ。」

と眩<sup>くら</sup>いた。すると、不意に、月蝕だとは知らずに月蝕の月を仰いだ少年時代の一夜の記憶<sup>きおく</sup>が、思いがけなく鮮明に彼の脳裏によみがえってきた。

C 空に月が出ていたが、あれは真夜中だったか、夜明けだったか。彼は道を歩いていた、戦闘帽をかぶり、肩から救急袋と防空頭巾を斜めに吊<sup>つる</sup>し、脛<sup>すね</sup>にはゲートルを巻き、編み上げの靴を履いて。

けれども、彼は兵隊ではなかった。旧制中学の三年生で、警戒警報が発令されたら直ちに市の警察署へ駆<sup>か</sup>けつけて署長の指揮下に入る少年報国隊の隊員であった。

彼は、おなじいでたちの級友と二人で市の裏通りを歩いていた。街々は暗く静まり返って、道には犬ころ一匹見当らなかつた。市には、すでに警戒警報が発令されていた。けれども、彼と級友とは警察署とは反対の方向へ歩いていた。

あのときは、二人でどこへいこうとしていたのだったろう。集合が遅れている仲間を迎えにいくところだったろうか。

D 彼は、歩きながら、何気なく空の月を見上げた。すると、月が異様な欠け方をしていた。家を出るときみた月とは、はつきり形が違っていた。目をこすってみても、おなじことであつた。彼は、わけがわからずに、ただその歪<sup>ひず</sup>な月に不吉なものを感<sup>かん</sup>じた。仲間<sup>なか</sup>に黙<sup>もく</sup>つていようと思<sup>おも</sup>つたが、やはり話さずにはいられなくて、

「おい……あの月。」

と彼は小声でいった。あ、と仲間はちいさく叫んで、立ち止まりそうになった。

「……月蝕だ。」

彼は、あれが月蝕かと、改めて歪な月を仰いだ。ふと、今夜の空襲で俺は死ぬなどという気がした。けれども、死の恐怖は、全くなかつた。これで俺の一生もお仕舞いかという感概もなかつた。ただ、飛行兵志望だったのに、いちども飛行機に乗<sup>の</sup>ることがないままに死んでしまうのを残念に思<sup>おも</sup>つた。

彼は、指を鳴らして、

「畜生。」

と独り言をいった。すると、仲間もなにを考<sup>かん</sup>えていたのか、

「畜生。」

と呟いて、指を鳴らした。

それから、二人は月蝕の月を浴びながら黙<sup>もく</sup>って歩きつづけた。

随分昔のことだ、と生き延びた彼は、あれから三十数年後の歪な月を眺めながら思<sup>おも</sup>つた。

いまから思えば嘘うそのような記憶だが、あんな夜が自分には確かにあったのだ。毎日が、月蝕げつじくどころではなかった昔のことだ。

子供たちの寢室の闇は、夕食の餃子Fぎょうざの匂いがしていた。そういえば、あのころは餃子なんて知らなかったな、この世に餃子みたいな珍味があるということも知らなかったな、と彼は思った。三女は、戸口に一番近いベッドで、荒い寝息を立てて眠っていた。彼は、何度か三女の名を呼んでみた。それから、肩を何度も揺さぶってみたが、三女の寝息はやまなかった。

彼は、約束に反することだが、このまま眠らせておこうと思った。子供たちにはもう焼き殺されることなどないのだから、この先、月蝕げつじくぐらいは何度でもみられる。

(三浦哲郎「月蝕」による)

### 【注】

\*ゲートル：脛を包む服装品。

問一 空欄  X、 Y に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の

選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① X 埒らちが明かない Y 見る目がなかった
- ② X 身も蓋かたもない Y 手を尽くした
- ③ X 仕様がな Y 運がなかった
- ④ X 勝ち目がな Y 夢見が悪かった

問二 「頼み事」<sup>A</sup>とあるが、三女の頼み事とはどのようなことか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① これから月蝕げつじくがみられるかどうか空を見張っているが、もしも寝てしまったときは起こしてほしいこと。
- ② このあと空が晴れて月蝕げつじくがみられるようなら、ぐっすり眠っている場合でも自分を起こしてほしいこと。
- ③ もしもこれから雨がやんで月蝕げつじくがみえるようになったら、姉だけでなく自分も起こしてもらいたいこと。
- ④ ぐっすり眠っている姉を自分が起こしたいから、雨がやんだら、先に自分を起こしてほしいということ。

問三 「首をかしげるような気持」<sup>B</sup>とあるが、「彼」がこのような気持になったのはなぜか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 蒼白く光る隣家の屋根や周囲のいろいろなもの明るさが、夜にしては明るすぎると感じたから。
- ② 窓の外が今までより明るくなったとはいえ、最良の状況になったとまではいいえないと思ったから。
- ③ 今夜はもう空の状況が変わることはあるまいと思っていたのに、月蝕げつじくの月が空に現れていたから。
- ④ ふと目をやった隣家の屋根や壁の様子が、先ほどまでは思いもしなかった状態になったから。

問四 「空に月が出ていたが」<sup>C</sup>から始まる夜の回想場面の表現についての説明として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 遠い昔の出来事をしだいに思い出していく描写が幻想的であり、二人の人物の言葉や辺りの物音が細かく描かれることで月蝕げつじくの夜という特異さが印象づけられる。
- ② 戦争という特殊な時代における「彼」の切迫した気分が短文を重ねることでもなまなましく描写される中、月蝕げつじくの情景は比較的長い文でゆったりと表現されている。
- ③ 月蝕げつじくの不気味さが比喩を用いて表現されており、綴友と歩いている「彼」の複雑な心境や死をおそれる気持だが、熟語の多用によって固い印象で描写されている。
- ④ あいまいな記憶の中において、はっきり描かれている月蝕げつじくが印象的であり、二人の人物の暗くやるせない気分が、二人の同じ言葉や動作の繰り返しに表れている。

問五 「月が異様な欠け方をしていた」<sup>D</sup>とあるが、この月を見て、「彼」はどのような気持ちをもったか。五十字以内で書きなさい。

問六 「あんな夜」<sup>E</sup>についての説明として最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で

答えなさい。

- ① 現代とは違って個人が自由を奪われ、月蝕をみることもはばかれるような絶望的な一夜。
- ② 三十年たつても自分に起きたことだとは信じにくいのが、今思えば楽しい思い出だった一夜。
- ③ 今から思えば異様で閉塞的な気分になった、戦争という時代における別世界のような一夜。
- ④ 戦争に翻弄されて空虚に生きていた、記憶から消してしまいたい一生の汚点のような一夜。

問七 「餃子」<sup>F</sup>がこの文章にもたらす効果はどのようなものか、最も適当なものを、次の

選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 餃子さえ手に入らない昔の貧しい暮らしを印象づけつつ、現在の恵まれた食生活を強調する効果。
- ② 現在の満たされた暮らしを印象づけつつ、香ばしい匂いや色をイメージさせることにより場面を転換する効果。
- ③ 満ち足りた現代を象徴する一方で、焼け焦げたイメージにより、これから戦争が起ころうることへの不安を暗示する効果。
- ④ 豊かな食べ物に娘たちの若々しさを重ねる一方で、焼け焦げた色彩に年老いていく父親のいちまついちまつの寂しさを漂わせる効果。

## 第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

文字のない時代にあっても、話し言葉さえあれば、小さな部族で日常生活を営むには別に支障はありません。X、部族が大きくなってくると、目の前にいる相手とだけコミュニケーションをとっていけばすみ場合はありません。どんなに叫んでも、聞こえない距離にいる人間ともコミュニケーションをとらなくてはなりません。Y、大きな集団生活を維持するための決まりやその集団の精神生活を支えるための言い伝えを次の世代に伝える必要があります。さしあたっては、優れた記憶力の持ち主を選んで、その任務を遂行させればいいのです。

ですが、音声による伝達は、耳によって受け取られることだけを目的にしていますから、語った途端に消えてしまいます。とくに困るのは、優れた語り手の不慮の死によって、集団の精神生活を支えるための伝承が途切れてしまうことです。なんとか、次の世代に自分たちが苦勞して得た智慧や知識を確実に伝える術は無いか？ 記録すること。記録にして残せば、後の時代の子孫たちも、それを見ればさまざまな智慧や知識を得ることが出来ます。記録するのに適切なものは、何でしょうか。

絵。絵でも確かにある程度は伝えることが出来ます。けれども、描くのに時間がかかるし、誤解のないように伝えることは難しい。そもそも、絵というのは、流れ続ける時間のなかのある瞬間をとらえて表現するものです。それに対して、話し言葉は時間の流れに沿って展開するものです。最初から、性質が異なる媒体なのです。時間的に展開する話し言葉は、やはり時間的に展開する「文字」に写し取っていくのが最も賢明な方法です。

日本人も、「文字」に記して自分たちのIな財産を子孫に残そうと考えた。でも、「文字」と一口に言っても、どうしたらいいのでしょうか。そもそも「文字」がないのです。なにしろ、「話し言葉」だけで、生活してきましたから。「文字」をどうしたら、手に入れられるのか。とるべき方法は二つしかありません。一つは、自分たちで、自分たちの話し言葉を記すのに適した文字を創り出していく方法。もう一つは、すでに創られ使われている他国の文字を借りてきて利用する方法です。

さて、あなたなら、どちらの方法をとりますか。創り出すほうが、一見大変そうにみえます。それに対して、借りる方が簡単そうに思えます。でも、新しく文字を創り出していく方法は、文字を書いていくシステムさえ思いつけば、思っているよりも、IIで楽しい作業になります。韓国のハンゲルなどは、その良い例です。ハンゲルは、李朝第四代国王世宗の時代に学者によって考案され、一四四六年に「訓民正音」として公布された

朝鮮固有の文字です。アルファベットのような表音文字でありながら、漢字の原理を取り入れ、母音字と子音字を組み合わせて音節単位に書く文字です。一定のシステムに従ってIIIに創り上げられています。

さて、もう一方のよその国の文字を借りるという場合は、思っているよりも楽ではないのです。とりわけ、書き記すべき日本語とは違った構造の言語の文字を借りた場合には、その苦勞は半端ではありません。いったん出来上がった家を自分の好みに合わせてリフォームしていく作業を思い起こしてください。新築の家を建てるのよりも、技術がいります。新築の家なら、新米の大王さんにもできる。でも、リフォームは新米の大王さんには出来ない。熟練した大工さんになって、はじめて好みにあったリフォームが出来るのです。

出来上がってそれなりに完成している物を作り変えるという作業は、実は新品を造るよりもある意味では大変だということに、日本人は気づきませんでした。

というより、日本には、お隣に中国という文化国家があり、政治・経済を含めてすべてを取り入れ、吸収せざるを得なかったといった方がいかもしれません。中国には、紀元前一五〇〇年頃に発生した漢字が存在しています。尊敬している国に漢字という手本がある。それっ、というわけで、よくも考えずに日本が漢字を借りてしまうのはごく普通の道筋です。

でも、これが、後に日本の表記体系を複雑きわまりないものにしてしまう原因になるのです。日本のように、書かれた人名や地名をどう読むのか見当がつかないなんて国は、そうざらにあるものではありません。文字をよく知っている人でも、正しく声に出して読めないという不思議な国なのです。以下、このことをポイントだけつかみながら述べていくことにします。

文化も高く、日本よりも数段、勝っている中国の漢字を、日本が受け入れたのは、『古事記』や『日本書紀』によれば、三世紀の終わりのこと。中国からの書物『論語』『千字文』との対面がそれであったと記されています。実際にはもう少し遅く、四世紀頃のことと考えられています。

漢字を借りて、日本語を書き表せば良い。けれども、そんなにうまく行くわけがありません。もともと、中国語と日本語とは異なる体系の言語なのです。たとえば、日本語の語順は、述語が最後に来る。ところが、中国語では、英語と同じく主語の後に直ちに述語が来る。

また、日本語には、多くの助詞・助動詞があり、それが実質的な意味を持つ単語に膠で

接着したようにくつついて、文法的な役割を示しています。「膠着語」と呼ばれる言語の一つです。一方、中国語には、日本語の助詞・助動詞に該当するようなものがとても少ない。文法的な役割は、実質的な意味を持つ単語の順序で表します。「孤立語」と呼ばれる言語の一つです。

こんなふうに、異なる系統の言語の「文字」を借りてしまったために、日本人は日本語を書き表すのに、相当な苦勞を払わなければならなくなった。表記に苦しむ日本人の姿は、『古事記』の序文にうかがえます。

(中略)

借り物の漢字では、うまく日本語を書き表せないもどかしさ苦しさが切々と語られています。隣国にすでに作られた漢字があったということは、それを利用できるといふ安易さと引き換えに、利用することによってひき起こされる問題が浮上してきたのです。

(山口仲美「日本語の歴史」による)

問一 空欄 X、Y に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① また ② それとも ③ では ④ でも ⑤ だから

問二 空欄 I、II、III に入る言葉として最も適当なものを、次の選択肢からそれぞれ選び記号で答えなさい。

- ① 絶対的 ② 文化的 ③ 体系的 ④ 具体的 ⑤ 創造的

問三 「記録するのに適切なものは、何でしょうか」について次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

(1) なぜ「記録する」ことが必要なのか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

① 集団の精神世界を支えるための言い伝えとして、話し言葉では発想できなかった新しい智恵や知識を伝えることができるから。

② 大きな集団生活を維持しながら次の世代に智恵や知識を伝えるうえで、話し言葉のような不正確さがなく普遍的な方法だから。

③ 自分たちが苦勞して得た智恵や知識を、自分たちの次の世代だけでなく他の部族や国の人にも広く伝承することができるから。

④ 離れた場所にいる者同士でのやりとりや、智恵や知識の伝承をするうえで、音声のように消えてしまわない確実な手段だから。

(2) 「記録する」のに何が適切だと筆者は考えているか、次の文の( ) に入る適当な内容を、その理由も含めて四十字以内で説明しなさい。

( ) が、記録するのに適切である。

問四 「よその国の文字を借りる」という場合は、思っているよりも楽ではない」とあるが、それはなぜか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

① 本来は構造を作り変えて使わなければならないものを、構造を作り変えないままに用いることは、簡単なことではないから。

② 自分の言語がもともと持っていた構造を、他の言語の構造に合わせて作り変えていく作業には、かなりの苦勞を伴うから。

③ いったん出来上がって完成しているものの構造を、それとは別のものの構造に合わせて作り変えるのは、容易でないから。

④ そもそも構造が違って二つのものを組み合わせるのは困難で、一見成功したとしてもあとで必ず欠陥が見つかるから。

問五 「日本の表記体系を複雑きわまりないものにしてしまう原因」とは何か、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

① 日本が、中国から政治・経済などを取り入れる中で、よく考えずに漢字を借りてしまったこと。

② 日本人の多くが、書かれた人名や地名をどう読むのかの見当がつかなくても気にしていないこと。

③ 紀元前一五〇〇年頃に発生した漢字を、はるかに歴史の浅い日本の国に取り入れてしまったこと。

④ 取り込むのが難しいはずの漢字を、中国から指導されるままに日本語に取り入れてしまったこと。

問六

日本語と中国語はどのように違うのか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 歴史的背景が大きく違うほか、日本語がいわゆる孤立語であるのに対して、中国語は膠着語である。
- ② 述語の置かれてある位置が違うほか、日本語に比べて中国語には、日本語の助詞・助動詞に該当する言葉が少ない。
- ③ 言語と政治・経済の結びつきの深さが違うほか、日本語と異なり中国語は、英語から派生した言語である。
- ④ 主語の位置が違うほか、日本語とは異なって、中国語は文法的な役割を実質的な意味を持つ単語の順序で表す。

第三問

次の傍線部のカタカナを漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- 1 音楽を聴いて気がマギれる。
- 2 物理学のキノを学ぶ。
- 3 季節の花を花瓶に入れてカザる。
- 4 暴徒は警察によってセイアツされた。
- 5 友達のチュウコクに従う。
- 6 庭で植物が繁殖する。
- 7 歩行者の通行を妨げてはいけない。
- 8 潤沢な資金を持つ。
- 9 この製品は耐久性がある。
- 10 長年幼児教育に携わる。

第四問 次の各問いに答えなさい。

〈問題は次ページへつづく〉

問一 次の(1)、(2)の傍線部の用言の品詞と活用形の組み合わせとして正しいものを、後

の①～④からそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。

(1) 曇りなので窓がそれほどまぶしくない。

(2) 限られた時間内で楽しもうと思う。

(品詞) ・ (活用形)

- ① 動詞 ・ 連用形
- ② 形容詞 ・ 連用形
- ③ 動詞 ・ 未然形
- ④ 形容詞 ・ 未然形

問二 次の(1)、(2)の傍線部と文法的に同じものを、後の①～④からそれぞれ一つずつ選

び記号で答えなさい。

(1) 北海道の祖母に手紙を書く。

- ① すぐに|出発しなければ。
- ② 彼女のように|正直な人はいない。
- ③ 呼んだのに|返事がない。
- ④ 全てが|失敗に|終わった。

(2) 彼はとても元気だ。

- ① 公園にあるのは|滑り台だ。
- ② 向こうに座っているのが|私の弟だ。
- ③ 手触りが|滑らかだ。
- ④ オレンジジュースを|飲んだ。

問三 次の傍線部①～⑤のうち、品詞が同じものを二つ選び記号で答えなさい。

昼休みに|図書室に|いて、おや、と思|った。机に置|かれたま|まの|ペン|ケースが|ある。名|前が|なか|ったので|誰の|もの|かは|わか|らない。な|くした|人は|さぞ|困っ|てい|るこ|とだ|らう。|だが|心当|たり|もな|く、|そこ|に置|いた|まま|にし|た。放|課後、|図書|室に|また|行っ|たら、|その|ペン|ケースが|まだ|あった。|クラ|スに|戻っ|たら|聞い|てみ|よう。



第五問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、<sup>\*1</sup>唐に、孔子、道を行き給ふに、八つばかりなる童あひぬ。<sup>わらは</sup>孔子に問ひ申すやう、<sup>A</sup>「日の入る所と洛陽と、いづれか遠き」と。孔子応へ給ふやう、日の入る所は遠し。洛陽は近し。童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば日の出づる所は近し。洛陽は遠しと思ふ」と申しければ、孔子、かしこき童なりと<sup>C</sup>感じ給ひける。「孔子にはかく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただ者にはあらぬなりけり」とぞ人いひける。

【注】

〔宇治拾遺物語〕による

\*1 唐…中国。

\*2 洛陽…中国の周代の首都。

問一 「問ひ申すやう」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書きなさい。

問二 「日の出づる所は近し。洛陽は遠し」とあるが、童がこのように考えるのはなぜか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 日の出入りはいつも見ているが、洛陽へはまだ行ったことがないから。
- ② 日の出入りする場所と洛陽とを見比べると、前者が近く見えるから。
- ③ 日の出入りするところは見えるけれども、洛陽は見えないから。
- ④ 日の出入りは神の力によるが、洛陽は人間がつくった街だから。

問三 「感じ給ひける」とあるが、孔子はどのようなことに感心しているのか、最も適当なものを、次の選択肢から選び記号で答えなさい。

- ① 童の、学問に向き合う子供らしい無垢な態度。
- ② 童の、孔子に対してもものおじせず質問する態度。
- ③ 童の、天文や地理の知識を正確に説明する態度。
- ④ 童の、他者の考えにとらわれず論理的に考える態度。

問四 文章中には会話を表す「」をつけられる箇所がもう一つある。その部分の初めと終わりの三字を抜き出して書きなさい。(句読点も字数に含む。)



【解答】

第一問 30点

問1 ③ 4点

問2 ② 4点

問3 ④ 4点

問4 ④ 4点

問5 (例) 今夜の空襲で自分が死ぬという予感と、飛行兵志望なのに飛行機に乗らないまま死ぬことへの無念な気持ち。(49字) 6点

《採点基準》

・「今夜の空襲で自分が死ぬという予感」という内容を書いている。

・「飛行兵志望なのに飛行機に乗らないまま死ぬことの無念」という内容を書いている。

・気持ちを表す文末「……気持ち。」「……思った。」「……無念だった。」「……無念だ。」などで書いている。

問6 ③ 4点

問7 ② 4点

第二問 30点

問1 X ④ Y ① 各2点×2

問2 I ② II ⑤ III ③ 各2点×3

問3 (1) ④ 4点

(2) (例) 文字は、話し言葉と同じく時間的に展開するものであるため、文字に写し取ること(37字) 4点

《採点基準》

・理由として、「(文字は)話し言葉と同じく時間的に展開するものであるため」という内容を書いている。

・記録するのに適したものとして、「文字(に写し取ること)」という内容を書いている。

問4 ③ 4点

問5 ① 4点

問6 ② 4点

第三問 20点 各2点×10

1 紛(れる) 2 基礎 3 飾(る) 4 制圧 5 忠告

6 はんも 7 さまた(げて) 8 じゅんたく

9 たいきゆう 10 たずさ(わる)

第四問 10点 各2点×5

問1 (1) ② (2) ③

問2 (1) ④ (2) ③

問3 ②・④(順不同・完答)

第五問 10点 問1・問4各2点×2 問2・問3各3点×2

問1 ともうすよう

問2 ③

問3 ④

問4 日の入( )近し。